

果 樹

りんご達の応援大会～さらなる高みを目指して～

果樹部会とJAは2月25日、「りんご達の応援大会」を花巻市内の温泉で開き、生産者やJA、市場関係者や行政など約150人が集まりました。

◆優秀生産者表彰

JA出荷農家を対象に優秀生産者を表彰。また、「2018いわて純情りんごコンテスト」で1等賞を受賞した団体も表彰しました。

販売額の部…販売額の最上位者を表彰

紅いわて……千葉 久さん
ジョナゴールド…宇津宮邦昭さん
蜜入りふじ……菅野常見さん

品質の部…秀品率と適玉率の最上位者を表彰

紅いわて……伊藤正孝さん
ジョナゴールド…宇津宮邦昭さん
蜜入りふじ……戸来邦次さん



◆平成31年度生産販売推進方針

生産者の所得増大と産地形成に向けて、以下の取り組みをします。

- 品種のスクラップ(終焉) & ビルド(新導入)
- 新たなマーケティング開発とマッチする品種の選抜
- 紅ロマン・紅いわての高品質産地形成
- 品質ワンランクアップ運動を実施・秀品率60%
- 果実需要期の安定供給
- PR活動など

◆パネルディスカッション

「まとまったロットの高品質産地を目指して」と題し、市場より荒巻万寿夫さん(大果大阪青果株)、伊藤正孝さん(農の匠)、菅野常美さん(東和支部副支部長)、宇津宮邦昭さん(若手りんご生産者グループ会長)がパネラーとなって、生産者の所得増大を目指し活発に討論し合いました。



園 芸

「二子さといも」さらなるブランド力強化に向けて



生産者や北上市、JAなどで組織する二子さといも協議会は2月19日、北上支店(北上市流通センター)で「平成30年度二子さといも実績検討会」を開きました。

会員約50人が参加。小原富美雄会長は「来年度に向けたよりよい話し合いにしてほしい」とあいさつしました。検討会では、同市の職員が昨年9月の地理的表示(GI)保護制度登録後の課題や今後の取り組みを紹介したほか、販売戦略について提案しました。勉強会も開き、県中央農業改良普及センターの鴨志田千恵さんがほ場づくりの基本技術について講演。堆肥の役割や選び方、マルチの種類や特性などについて伝えました。

パンフレットを制作

同協議会は、県の「未来を担う園芸産地一番星育成事業」を活用して「二子さといも」や料理、GI登録などについて紹介するパンフレットを制作しました。



各グリーンセンター定休日

3・4月の定休日と営業時間は次の通りです。ご確認の上ご来店ください。

※定休日と営業時間はそれぞれの店舗によって異なりますのでご確認ください。

	定休日	3月の営業時間	4月の営業時間
花 巻	3/3(日)・3/10(日)	8:30~17:00	平日…8:30~18:00/土・日・祝日…8:30~17:00
石 鳥 谷	3/9(土)・3/23(土) / 4/13(土)・4/27(土)		8:30~17:00
大 迫	土・日・祝日		8:30~18:00
東 和	3/2(土)・3/16(土) / 4/20(土)		平日…8:30~18:00/土・日・祝日…8:30~17:00
北 上	3/10(日)・3/24(日)		8:30~17:00
西 和 賀	3月…土・日・祝日 / 4/7(日)・4/14(日)		8:30~18:00
遠 野	3/9(土)・3/23(土) / 4/10(水)		

●お問い合わせ先：営農部生産資材課 ☎ 0198-22-6192 または、最寄りのグリーンセンターまで

園 芸

初! ピーマン販売高4億5,000万円突破!

JAいわて花巻の野菜販売高で1位を誇るピーマンが、初めて販売高4億5000万円を超えました。

JAは、収益性が高く共同選果により労力軽減が図れるピーマンに着目。以前から推進品目に指定していましたが、さらなる生産拡大に取り組むため今年度から最重点推進品目に指定しました。今年度は、全国的な品薄により高単価で販売され、1kg当たりの平均価格が458円(前年比130%)となったことが販売高の増加に繋がりました。

来年度は、栽培面積拡大や販売高の増加に繋げようと、「いわて型野菜トップモデル産地創造事業」によるハウスピーマンの拡大を推進。2021年度までに販売高5億4,000万円を目指します。

平成30年度 ピーマン生産実績

販売高 4億5,037万円

出荷量 961t / 栽培面積 2,245a / 生産者数 296人

◆JAの取り組み

①補助事業

JA全農いわてや行政などの手厚い補助事業により、新規栽培や集落営農組織、法人の栽培面積拡大に繋がった。

②農の匠

JAが地域の中核農家を指導役として委嘱している「農の匠」が、定期的に開催している指導会で指導や助言を行い、栽培技術の向上に繋がった。

生産者全員が一生涯懸命頑張った成果が表れた。来年度も皆で頑張り、単収向上と販売高5億円以上を目指したい。

花巻地域野菜生産部会
ピーマン専門委員会
晴山文佳 委員長



畜 産

牧草地の土壌改良について学ぶ



畜産部会連絡協議会は1月29日、花巻市内のホテルで「畜産後継者・若手経営者合同講習会」を開きました。

生産者やJA、行政の関係者約40人が出席し、県中央農業改良普及センターの佐々木正俊さんから「牧草地における土壌改良施用効果」について学びました。土壌の水素イオン指数(pH)と肥料要素の溶解・利用度について、平成29年度花北地域土壌分析の平均値はpH5.03(最高値6.1、最低値4.12)という結果がでました。佐々木さんは「pH5.03ではどの成分もほぼ効かず、牧草の適正範囲は6.0~6.5で、無駄なく吸収できる」と話しました。

平均値を上げるため、「草地055号」施用実証圃を花巻市の2戸、北上市の2戸、西和賀町の2戸に設置。施用効果として散布の省力化、牧草の栄養改善、生育量の増加など挙げられました。

園 芸

来年度の栽培に向けて

花巻地域野菜生産部会石鳥谷支部は2月14日、花巻市内の温泉で「平成30年度実績検討会並びに優良生産者表彰式」を開きました。

部会員やJA職員など約120人が参加。高橋和美支部長は「研修では質問をし、即実践できるように勉強してほしい」とあいさつしました。実績検討会では、JA職員が今年度の販売実績と課題、来年度の野菜推進方針について説明。研修では、近年実績と単価が良い葉茎菜類に再度スポットを当てようと、JA全農いわて園芸部生産販売課の三浦瑞明課長が県内の栽培実態を紹介したほか、露地ニラやブロッコリーなどを例に挙げて栽培提案を行いました。また、JA職員も具体的な試算表や作型を紹介。冬季の遊休ハウスを活用して葉茎菜類の栽培に挑戦し、所得向上に繋げることを提案しました。

表彰式では、総合の部として200万円以上の販売者81人のほか、重点野菜11品目ごとに品目と反収の2部門でのべ56人に賞状を授与しました。

